はじめに

書店に行くと、仕事がデキて、部下に慕われて、リーダーシップを大いに発揮するというような「理想の上司」になるための本がたくさんあります。

ですが、本書は「理想の上司」を目指すための本ではありません。あなたが上司として〝やってはいけないこと〟や〝当たり前にやらないといけないこと〟について述べた本です。

最近話題の言葉を使えば、「残念な上司」にならないために知っておくべきこと、身につけておくべきことを解説しています。

上司は部下にとって、いい意味でも悪い意味でもお手本となるべき存在です。

自分が若手社員だった頃を思い出すと、「あの課長の考え方はマネしよう」「あの係長のやり方はマネしちゃダメだな」というように、上司の行動をチェックしていたと思います。そして今、そうして部下からチェックをされる立場に、あなたがなっているのです。

この本では、仕事の現場で部下が上司に指摘することがなかなかできない改善点をテーマごとに解説しています。

昔は自分も上司に直して欲しいと思っていたこと、自分が上司になったら絶対やらないと誓っていたことも、立場が変わることで忘れてしまいます。

もちろん、上司たるもの部下の目を気にしてばかりいてもしかたがありません。部下に対しては時に厳しい態度で指導することも必要でしょう。

最近では、部下に遠慮して言いたいことをグッと我慢してストレスをためている上司の方も多いようです。ご安心下さい。そのような方々のために、部下との良好な関係の作り方についてもしっかりと述べております。

この本では、「やってはいけない」ことに注目していますが、「やってはいけない」こととは、「やるべきこと」の裏返しです。

「最近の部下は……」と愚痴を言っている時間があれば、上司として「やるべきこと」「やってはいけないこと」を日々確認して、部下との良好なコミュニケーションを考えなくてはなりません。

上司の本来の仕事は、部下を育てること。そして、部下と円滑にコミュニケーションをとり、チームとして成果を上げていくことなのです。

あなたはいったいいくつの「やってはいけない」地雷を踏んでいるでしょうか？

ぜひ、自らを振り返りながら上司としてのレベルを上げていきましょう。